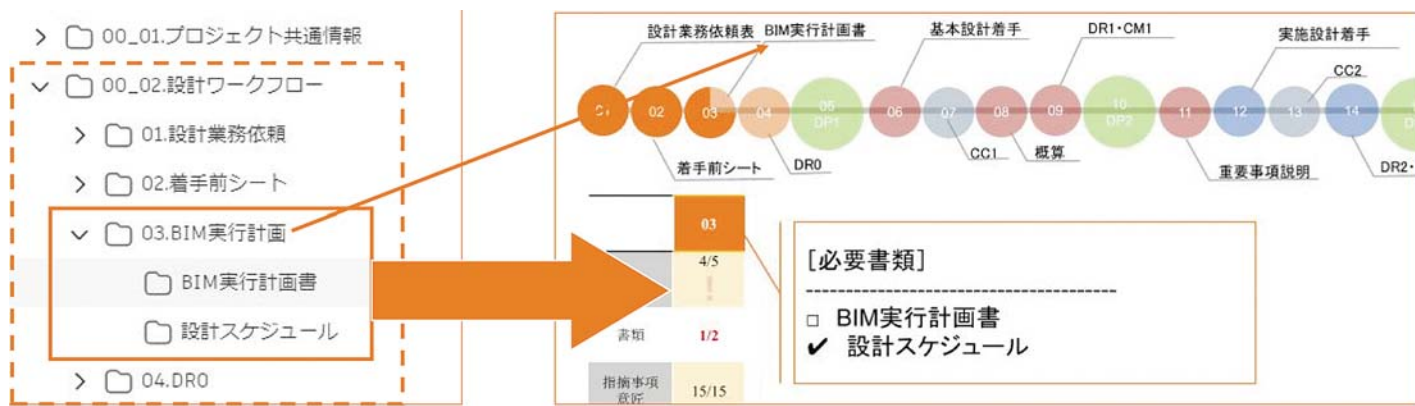


「oneAQ」は等身大プラットフォーム

美保テクノス×応用技術



「Connect.one ACCURATE」は2025年度中にリリースへ

野津 23年2月に認証取得したISO19650により、設計プロセスが見える化でき、設計部門の正しい仕事の流れを明確化できた。着工前までに施工部門に成果物としての設計情報を提供し、設計と施工の連携がスムーズに。設計と施工をつなぐ役割としてBIM戦略部のあり方を進化させていく。

山内 施工部門からBIMへの理解を示す声も出始めている。現場担当からBIM戦略部に対して社内報で感謝のメッセージが掲載されたことは貴重な一歩だと受け止めている。こうした

野津 23年2月に認証取得したISO19650により、設計プロセスが見える化でき、設計部門の正しい仕事の流れを明確化できた。着工前までに施工部門に成果物としての設計情報を提供し、設計と施工の連携がスムーズに。設計と施工をつなぐ役割としてBIM戦略部のあり方を進化させていく。

山内 施工部門からBIMへの理解を示す声も出始めている。現場担当からBIM戦略部に対して社内報で感謝のメッセージが掲載されたことは貴重な一歩だと受け止めている。こうした

美保テクノス(鳥取県米子市)が、応用技術(大阪市)と連携してBIMのプロセス管理ツール『Connect.one ACCURATE』(oneAQ)を2025年度中にリリースする。oneAQはBIMの国際規格ISO19650を認証取得した美保テクノスが実践する設計プロセスの流れを見える化したもので、両社は建設会社や建築設計事務所へのBIM導入をトータル支援する体制も確立する方針だ。美保テクノスの野津健市社長、山内英樹常務建築本部長、新田唯史執行役員BIM戦略部長、応用技術の小西貴裕専務DX事業統括責任者にoneAQの狙いや両社の関係性について聞いた。



左から小西氏、野津氏、山内氏、新田氏

試行錯誤のプロセスが見える化

野津 23年2月に認証取得したISO19650により、設計プロセスが見える化でき、設計部門の正しい仕事の流れを明確化できた。着工前までに施工部門に成果物としての設計情報を提供し、設計と施工の連携がスムーズに。設計と施工をつなぐ役割としてBIM戦略部のあり方を進化させていく。

山内 施工部門からBIMへの理解を示す声も出始めている。現場担当からBIM戦略部に対して社内報で感謝のメッセージが掲載されたことは貴重な一歩だと受け止めている。こうした

野津 23年2月に認証取得したISO19650により、設計プロセスが見える化でき、設計部門の正しい仕事の流れを明確化できた。着工前までに施工部門に成果物としての設計情報を提供し、設計と施工の連携がスムーズに。設計と施工をつなぐ役割としてBIM戦略部のあり方を進化させていく。

山内 施工部門からBIMへの理解を示す声も出始めている。現場担当からBIM戦略部に対して社内報で感謝のメッセージが掲載されたことは貴重な一歩だと受け止めている。こうした

美保テクノス自ら試験導入

美保テクノスでは、1年前からBIMプロセス管理ツール『Connect.one ACCURATE』(oneAQ)の検証を本格化してきた。過去のBIMプロジェクト3件を対象にした実証試験を完了し、現在はサービス付き高齢者向け住宅とオフィスの進行中プロジェクト2件に試験導入し、設計担当とシステム担当が連携しながら使い勝手などを調整中だ。2025年度中のリリースに向けて着々と準備が整っている。

同社が認証取得したISO19650に基づき構築した設計プロセスを見える化したoneAQは、応用技術が提供するクラウドサービス『Connect.one』を基盤にしたダッシュボードの上でプロジェクト関係者がリアルタイムに進捗を管理する情報共有ツールだ。

美保テクノスは社内のCDE(共通データ環境)を整えた上で、グループ会社のスベックが中心になり、応用技術が協力する形でoneAQのシステム開発を進めてきた。検証に着手したのは1年ほど前だ。実証プロジェクトの設計責任者を務める設計部の北野哲也係長は「設計者の役割は顧客の思いを形にすることであり、使い勝手だけでなく、設計業務の負担にならないようなアイデアも出している」と語る。

oneAQ開発の責任者を務めるBIM戦略部の網田裕輔主任は「私自身が設計部門に所属して



網田氏(左)と北野氏

いた時の経験を生かし、設計情報を2次利用することで設計担当の負担を抑える仕組みを追求している」と続ける。両氏が「着工前までに施工のことを踏まえた質の高い設計成果を導き出すことが前提になる」と口をそろえるように、美保テクノスではBIMの設計プロセスを円滑に進

める上で、独自の組織体制も確立している。社内ではISO19650に基づいた設計プロセスに沿って業務を進める中で、BIMデータ構築の進捗を管理するタイムキーパー役「プロセスコントローラー」を位置づけ、設計担当の業務が期日通りに進んでいるかをチェックしている。設計前、設計中、設計後は施工部門長クラスからの意見を聞くレビューも組み込んでおり、設計者の目線が常に施工を意識するような枠組みになっている。oneAQは、その設計進捗を管理するツールになっている。

トライアルプロジェクトの初弾となるサービス付き高齢者向け住宅は設計が完了し、工事がスタートした。BIMデータは現場の生産性向上に役立てられるように、施工担当に引き継がれる。現場担当者のBIM活用スキルに応じて、BIM戦略部が支援する流れになり、1現場当たり1人の

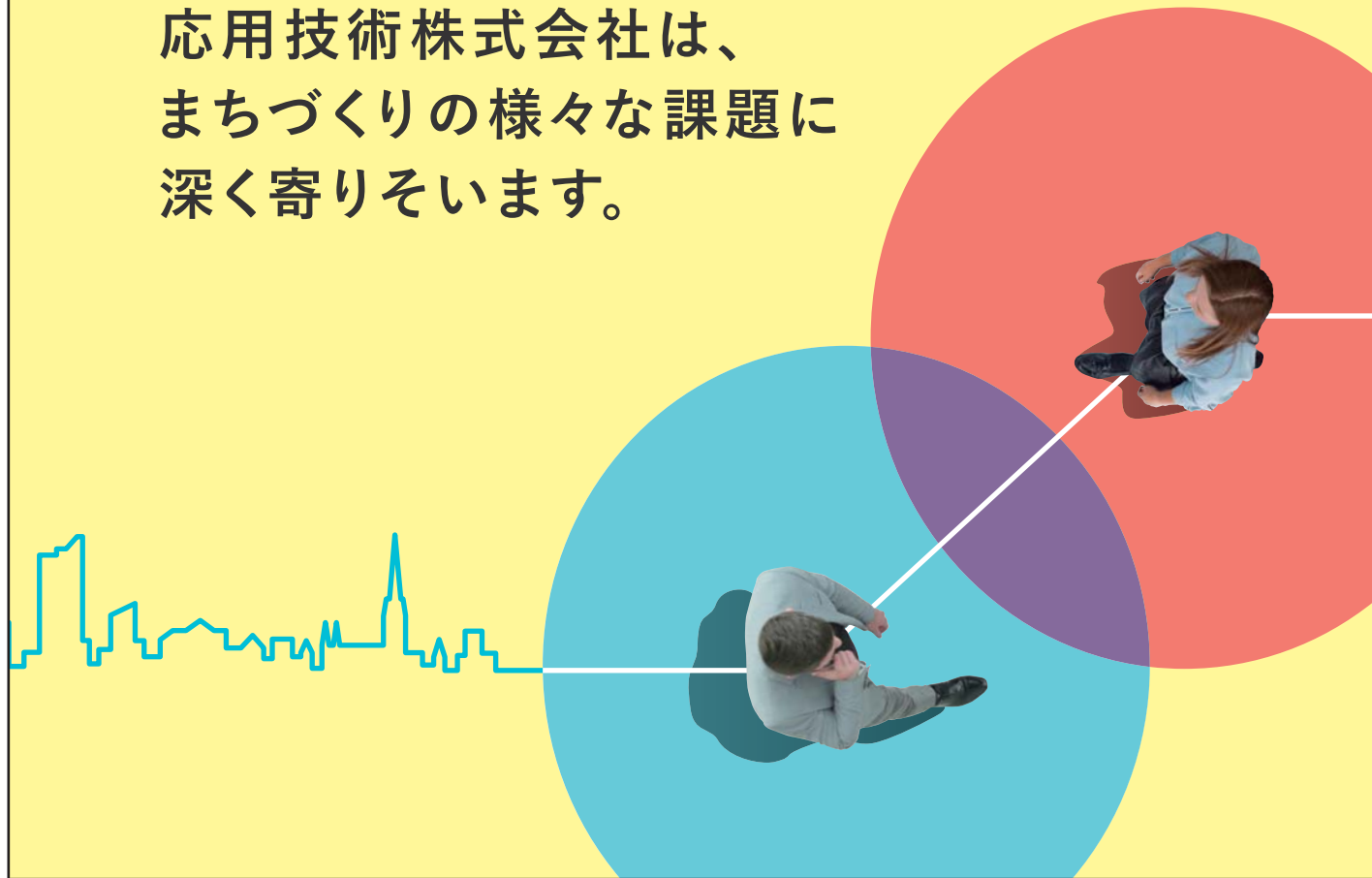
支援役を置いている。BIMの進捗を管理するプロセスコントローラーは3人を任命。網田氏もその1人だ。「oneAQはCDEを誰が見てもわかりやすい状態にするツールだけに、設計者だけでなく、顧客、協力業者にも参加してもらうことで、合意形成の面でも活用できる」と強調する。

oneAQの確立を通じて、新たな役割の道筋も出てきた。北野氏は「私自身、設計担当としてプロセスコントロールの部分も含めて横断的に取り組むBIMマネージャー的な存在を目指していきたい」と思いを口にする。網田氏は「正確な建築情報を後工程に渡すことがBIMの本質であり、oneAQを検証する中で、新たなプロセスコントローラーの役割も確立していきたい」と前を向く。oneAQの検証を通じて担当者の意識も変わり始めている。

応用技術株式会社

人とひと、人と街を、
確かな線でつなぐ。

応用技術株式会社は、
まちづくりの様々な課題に
深く寄りそいます。



夢、まち、人づくり。
MIHO
美保テクノス株式会社

BIMの可能性は無限大
BIMで未来を切り拓こう

